

【樹木の部屋】

シャリンバイ（バラ科シャリンバイ属 *Raphiolepis indica* var. *umbellata*）

和名：シャリンバイ（車輪梅） **別名**：ハマモッコク、テーチ木、タチシャリンバイ

英名：Indian hawthorn

バラ目 常緑低木

原産地：東アジア

花言葉：そよ風の心地よさ、愛の告白、純真

花色：白



←\ 写真-1、2 シャリンバイ
撮影日：2020年4月25日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：M さん



→ 写真-3 シャリンバイの新芽
撮影日：2020年4月25日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：M さん





←写真-4、5 シャリンバイ(花・蕾)

撮影日：2023年5月6日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

シャリンバイの名は、葉や枝が車輪状に出ることと花の形がウメに似ることからだそうです。別名のハマモッコクは、葉の雰囲気モッコクに似ていることからだそうです。

葉は楕円形で厚く、深緑色で艶があり、葉の縁は全縁またはまばら鋸歯があり、やや外側に卷きます。多くの場合、枝先に葉が集中する傾向があり、単葉で車輪状に互生しますが、よく観察すると枝から互い違いに出ているのが解かります。春から初夏にかけて、新しい葉と入れ替わる形で、下の方の古い葉が赤く色づいて落葉します。

春になると枝先に白い五弁花が円錐状に集まって咲き、微香を放ちます。雄蕊は花粉を出すと赤くなるため、時季によって花の印象も変わります。秋に球形のナシ状果の果実は黒紫色に熟します。

乾燥や大気汚染に強い性質を持つため、街路樹や公園樹として多く利用されている樹木です。また、艶のある常緑葉が美しく、刈り込みに耐えるため庭木としても利用されています。樹皮や材にはタンニンを含み、樹皮から作る褐色染料は奄美大島の大島紬にも使われています。

実生、挿木により増殖ができます。日当たりと水はけのよい場所であれば特に土質は選びませんが成木での移植を嫌うので要注意です。

花後の7月頃が剪定適期です。シャリンバイは、その年に伸びた新枝に花芽ができ、翌年の春に開花しますので、刈り込み過ぎると、花芽がつくはずの枝先を切ってしまう恐れがあるので要注意です。